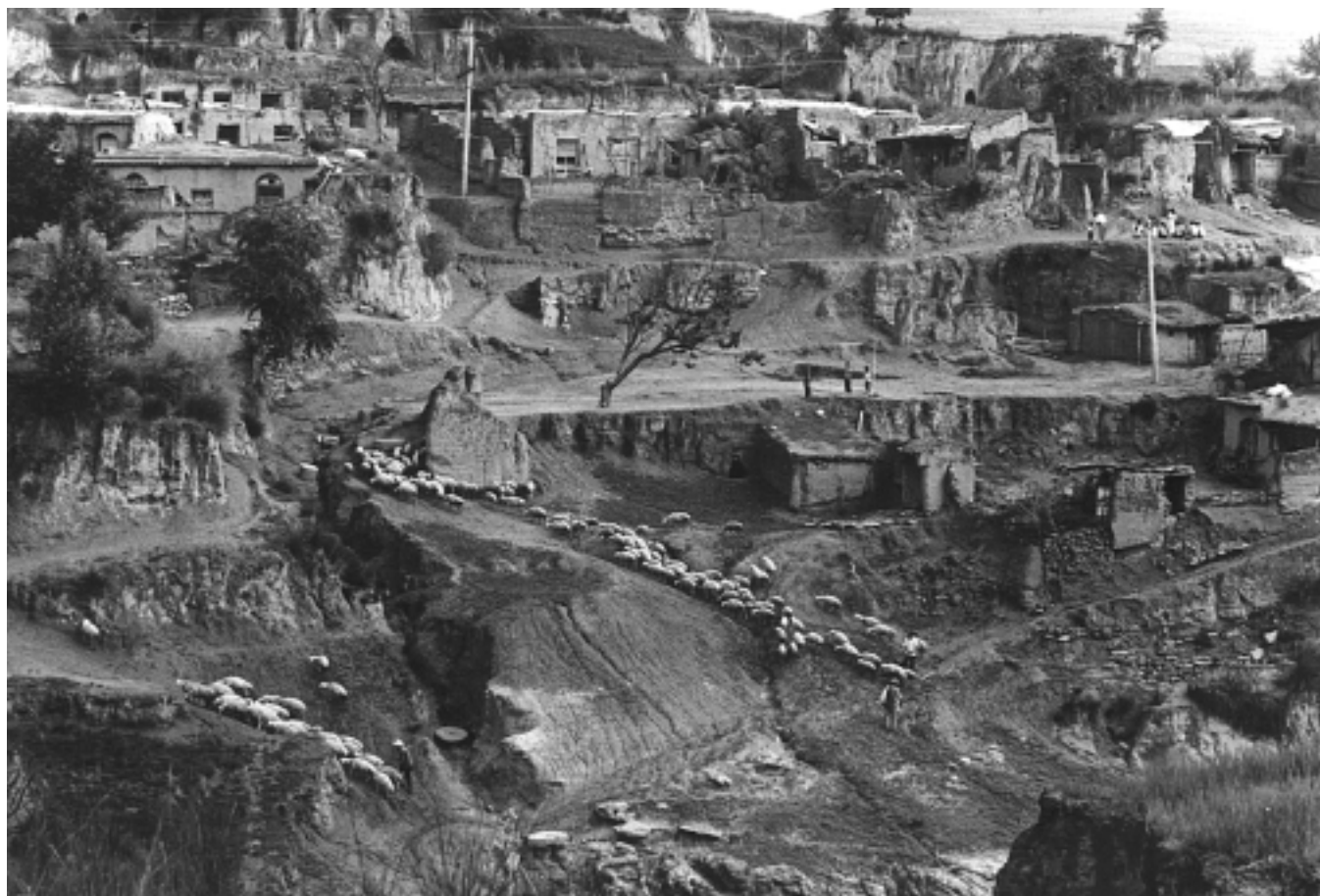


緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

黄土高原での植物採集	P 2
王萍さんに聞く	P 4
チコロナイ第2期計画現状報告	P 7



山の急斜面にへばりつくような天鎮県李二烟村。貧しい村ほどヒツジがおおい (撮影: 橋本紘二)

GENに参加するには

- 会員・会報購読者になる
- 自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ワーキングツアーに参加する
- ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- 使用済みテレカを集めて送る
- KDDグリーンアースダイヤルに登録する etc.

あなたのご参加を待っています!

1996・11

51

黄土高原での植物採集

遠田 宏 (前東北大学理学部付属植物園長)

かねてから計画のあった植物採集が、この夏のツアーで実現しました。採集の最大の目的地は霊丘県太白山(2234m)です。8月1日、前夜から続く小雨に不安を感じながらも小雨決行で3台のジープに分乗し出発しましたが、ジープを捨て登りだしてから幸運にも雨はあがり、写真をとりながら採集を続けることができました。登るにつれ山やまの嶺は次第に眼下に広がり、美しく咲く花との調和に心を奪われ採集を忘れるほどでした。1800m位まで登り引き返しましたが、そこで飲んだ生温いビールのおいしかったこと!

しかし宿舎に戻ってからの整理・標本作りが大仕事です。なにしろ現地での採集は初めてのことで、事前に打ち合わせをし必要な野冊やベニヤ板、シリカゲルなどは日本から持ち込み、現地では古新聞を用意してもらうことにしてあったのですが、イザとなるといろいろ手違いもあってあわてましたが、臨機応変なんとか乾燥の工程をすすめ、変色することもなく一応きれいな押し葉標本にすることができました。

現在、採集した標本の同定(鑑定)をすすめている最中ですが、科と属の同定が終わり種の同定をしている段階です。採集した植物の点数(個体数)は約400点(出来上がりの押し葉標本の枚数はその半数程度になる見込み)で、31科58属73種(種名は未定)が確認されていますが、この他に現段階で科の判らないもの2種、属の判らないものが4種あります。いちばん多かったのはキンポウゲ科の7属10種で、このなかには山西省を代表する美しい花を咲かせるヒエンソウ(飛燕草)、つる性や木性のクレマチス3種、オダマキやトリカブトの仲間など目を楽しませてくれたものが多くあります。二番目はマメ科の6属8種、ハデなもの

はありませんが根粒菌との関係で注目されます。三番目はキク科の7属7種、次いでバラ科とユリ科の4属5種、シソ科4属4種、キキョウ科、ナデシコ科各3種、カバノキ科、リンドウ科、アマ科、イソマツ科、ゴマノハグサ科は各2種、1種だけのものがムラサキ

種、裸子植物ではマオウ属とマツ属があります。これらの植物の大半は日本にはないものです。

今回の採集は花または種子のついているものだけに限定しましたので、例えばイネ科などは現地ではかなり多いのに採集はされていません。また採集



キンポウゲ科(上左)、ユリ(上右)、ヒエンソウ(左)、カラードで見せないのが残念

品の大半は高度1500~1800mの山岳地帯のもので、ここには森林はなく草原ですから、採集植物は灌木の4~5種を除きすべて草本植物です。さらに限られた時間とコース、といった条件のもとでの採集としてはかなりバラエティに富んだ植物

を得ることができ、予想以上に多様な植物が生育しているらしいことがわかりました。しかし霊丘県は気候温和なところですし、採集した山岳斜面は黒褐色の土壌が地表面から10~30cmほどあり、シダやランもあってむしろ恵まれたところでした。他の地域ではどうなのか? 緑化をすすめるためには植生の現状を知ることは大事なことで、これからはいろいろな地域で、いろいろな季節に採集をつづけたいものと思っています。終始同行した地球環境林センターの郭くんはすっかり標本作製の要領を覚えましたが、大きな力となってくれることでしよう。

科、スイカズラ科、マツムシソウ科、ツツジ科、トウダイグサ科、フウロソウ科、テリハボク科、アカバナ科、タデ科、アカネ科、セリ科、ベンケイソウ科、アヤメ科、ツバナ科、ラン科でした。シダ植物ではオシダの仲間が1

郵政省国際ボランティア貯金 NGO活動状況報告会

大阪港郵便局主催のNGO活動状況報告会が、10月22日大阪市立弁天町市民学習センターで開かれました。

ビデオ上映のあと、石原忠一さんによる、歴史、気候、地理などをまじえた黄土高原の概況に関する講演、秋の調査団から帰国されたばかりの有元幹明さんの報告、および国際ボランティア貯金による緑化協力状況の報告がおこなわれました。(東川)

会報隔月刊化のお知らせ

先月号でもお知らせしましたが、会報『緑の地球』は、来年より奇数月の刊行になります。隔月刊だと第3種郵便の対象からはずれて、1回あたりの郵送料が高くなりますので、年間購読料は2,000円に据え置かせていただきます。どうぞご了承ください。

また、企画・取材・編集のボランティアスタッフも大募集!! GEN事務所までお気軽にお問い合わせください。



緑の地球ネットワーク 第3回 会員総会のお知らせ

会員の方にはすでにご案内をさしあげましたが、緑の地球ネットワーク第3回会員総会を開催いたします。ぜひご参加くださるようお願いいたします。出欠のご返事がまだの方は、お早めにご返送ください。ご都合がつかない場合は、委任状への署名をお願いいたします。

会員以外の方も、記念公演は公開ですのでお気軽にご参加ください。また、会員総会の傍聴も歓迎します。当日受付でお申し出ください。懇親会に出席ご希望の方は11月23日までにGEN事務所にご連絡ください。

日時：1996年11月30日（土）

【進行予定】

13時 開場

13時15分 ビデオ上映

13時30分 記念公演「持続可能な発展とは」

講師：柴谷篤弘さん（前京都精華大学学長）

14時30分 会員総会

16時30分 終了

場所：エルおおさか（京阪・地下鉄「天満橋」駅から西へ約300m、TEL.06-942-0001）

懇親会 17時から 会費 3,000円

関東ブランチから

講座「緑の中国」第3回

「中国近世の森 - トラの眼からみた中国史」

講師：上田信（立教大学助教授）

日時：12月21日（土）15時～18時

場所：立教大学7号館7101教室

問合せ：上田信（TEL. 03-3838-1695、

E-mail: GFA06526@niftyserve.or.jp.）

緑の中国 歴史篇 9

中国の広さを実感しようと思ったら、長距離の列車に乗り込むといい。朝、列車の振動で目を覚まし、その日1日を列車に揺られ、車窓から夕日を眺め、「明日もまた同じ列車のなかか」と思いながら、規則的な線路の音のなかで眠りに落ちる。列車が生活の場となる、こんな列車は日本にはない。

中国でわたしが体験したもっとも長い列車の旅は、ウルムチ発・上海行きの4泊5日の長距離列車であった。乾燥した内陸の砂漠を猛然と走り始めた列車は、夏の小麦・トウモロコシで彩られた甘粛の黄土高原を抜け、華北平原に入る。そこから南下していくと、あたりの風景から畑作地が姿を消し、水田が広がり始めるのだ。ぼんやりと窓の外を眺め続けていても、まったく飽きることがない。シベリア鉄道で北京からモスクワへ行った友人は、ひたすら針葉樹の森ばかりが続いて、うんざりしたと語っていたが、中国の列車の旅は、そんなことはない。中国は単に広いというだけでなく、風土は本当

上田 信（立教大学助教授）
に多様なのだ。

「緑の中国」では、これまで主に乾燥した大陸北部の話をしてきたが、ここで少し南に目を転じてみたい。そうしないと、中国の特質を見落とすことにもなりかねないから。



祭りで踊りの中心になるミャオ族の銅鼓

ワン・ワールド・フェス 開かれる

10月20日、ワン・ワールドフェスティバルが鶴見緑地で開催されました。風が強く、少し肌寒い日でしたが、たくさんの方が参加しました。GENのテントは、ワーキングツアーに参加した

「南」。白川静氏によれば、この漢字は銅鼓をかたどっているのだという。上の「十」は青銅製の太鼓を杵につるす部位を表し、下の部分は浮き彫りが施された太鼓の本体を示す。「ナン」という発音は、銅鼓をたたいたときの余韻を含んだ響きを写している。漢字を生み出した華北に住む人びとにとって、「南」とは青銅製の太鼓を中心に生活する異境の民の住まう土地であったわけだ。

中国の貴州・雲南省からヴェトナムにかけて住んでいるミャオ（苗）族などの少数民族は、直径1メートルを超える銅鼓を儀礼の中心に据える習俗を現在に伝えている。南の森に関わり合いを持った人びとは、おそらくこうした少数民族の祖先であったと思われる。

学生さんたちや、会員さんの応援をえて、パネル展示や絵はがき、切り絵の販売、リーフレット・会報の配布など、なかなかのにぎわいを見せました。

このフェスティバルも今年で4回目となりすっかり定着したようですが、参加する側にも今後一層の工夫が必要だな、と思われた1日でした。（東川）

年末一時金カンパのお願い

中国山西省大同での緑化協力は5年目、北海道二風谷でのナショナルトラスト「チコロナイ」も第2期の1年目を終えようとしています。広がるGENの活動をささえるためにも、みなさまからのご協力をお願いします。発送作業の都合上、一律に振替用紙を同封しますが、すでにご協力をいただいた方には重ねてのお願いではありませんのでご了承ください。

王萍さんに聞きました

～大同事務所スタッフにインタビュー～

会報読者へのアンケートで、大同事務所のようなスタッフの声を聞きたい、というご意見をたくさんいただき、早速秋の訪中時にインタビューしてきました。ワーキングツアーに参加された方は覚えておいででしょう、いつもニコニコ優しい笑顔が印象的な通訳の王萍さんです(同じ王さんだけ、昨年秋に来日した通訳の王黎傑さんは北京在住の別人です)

王萍さんは大同市の病院にお勤めです。1989年から90年にかけて、埼玉医科大学で1年間研修を受けたことがあり、日本語はそのときに覚えました。でも、はじめてGENの通訳をしていただいたときには、久しぶりだったので日本語をほとんど忘れかけていて、その後でまた勉強をはじめたという努力家です。

Q まず、王さんが緑色地球ネットワーク大同事務所の仕事をしてくださるというので、私たちみんな大喜びしているんです。ありがとうございます。

ところで、王さんがはじめてGENの通訳をされたのはいつですか？

A 去年の3月、高見さんと竹中さんが来られたときです。

Q それは、どういうふうにご王さんに依頼がいったのでしょうか。どんな仕事だとか、聞いておられましたか？

A 最初、祁学峰さんが私の友達に頼んだのですが、友達ができなかったので私に。たまたまですが、祁さんは私の夫の同級生なんです。

仕事の内容は全然知りませんでした。大同賓館で祁さんと相談して、次の日に広霊県に行って、はじめて知りました。大同に来て34年になりますが、大同市でもこんなに貧しいところがあるとは、全然知りませんでした。自分の目で見なければ、信じられない。病院の同僚に話しても、なかなか信じてくれません。

そのあと水害があつて、病院で寄付の募集がありました。災害の寄付はよ

くあるけど、いつもは他の人と同じくらいいてほしいと思っていましたが、去年の水害のときにはできるだけたくさんのお金をあげたいと思いました。心から応じられました。

Q 病院ではどういうお仕事をしておられるんですか？

A 院内感染管理課の責任者です。

Q そしたら、お忙しいんでしょう？ 緑色地球ネットワークの仕事と両方というのは、大変ですね。

A そうですね。いまは、毎朝緑色地球ネットワークの事務所に行って、FAXの翻訳とか、急ぎの仕事を済ませて、それから病院に戻って仕事をしています。病院の同じ課の同僚がいろいろ手伝ってくれるので、とても助かっています。

Q じゃあ、私たちはその同僚の方に感謝しないといけませんね。よろしくお伝えください。

この仕事で楽しいことや、困ることはどんなことですか？

A 楽しいことは、年配の人や、いろいろな人とよくしゃべれて、日本のことをたくさん聞くことができ、日本語の交流もできることです。困ることは……う～ん、そうですね、日本語の方言がわからないですね。早口でしゃべる人も聞き取りにくいです。

Q そうでしょうね。日本語の方言もいろいろありますが、大同の方言もずいぶんあるでしょう？ 王黎傑さんが最初わからなくて困ったそうですが。

A それは、私は伝染病病院に勤めていますから、大同のいろんなところから患者さんが来るでしょう。大同の方言には慣れてはいます。

Q 今後、この緑化協力がどのようにすすんだらいいとお思いですか？

A 日本からのお金を各県に渡しているわけですが、県レベルでよくやってくれる人はまだ少ないです。本当にまじめに取り組まないと、植えてから何年たってもだめ。この秋、団のみなさんが来る前に、高見さんたちと94年に



この笑顔にツアー参加者はみんな安心

植えたアンズを見てきましたが、広霊県のある郷では植えたままみたく、ほとんど大きくなっていない。でも、渾源県のある村では、李さんという人が管理しているんですが、同じ年に植えた木が人の背丈より大きく、2mぐらいに育って実もなっていました。そういう人がいないと、緑化はすすみません。村に技術をもった人がいないとだめですね。

Q 日本側への希望は？

A う～ん、希望？ (しばらくニコニコ。ないですかあ？ と言うと) 植物の本。高見さんがいつも探しているけど、中国では適当な本が見つからないでしょう？ 日本語でもいいから、簡単な本があったら、私が翻訳してみんなで勉強します。

Q 最後に、日本の会員や協力して下さるみなさんへのメッセージを。

A 日本の会員が、日本で力を入れて、苦労してお金を集めてくれている。私は自信をもって、自分の力を全部そいで、まわりの人にも宣伝して、大同事務所の人たちと一しょに、緑の地球ネットワークがよくなるようにがんばります。(10月16日夜、北京万寿賓館にて。記録・文責、東川貴子)

今回は、今回忙しそうでお話を聞くのを遠慮してしまった大同事務所所長の祁学峰さんに、FAXでインタビューしてみたいと思います。「こんなことを聞いてほしい」というご要望がありましたら、11月30日までにGEN事務所までお寄せください。



世界の森林と日本の森林 (その5)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

照葉樹林帯の樹木の種子発芽

日本にある喬木(高木)は約600種もあり、照葉樹林帯にある樹木はその過半数を占める。いまから20年ほど前に、その種子の発芽に関してどれくらい調査研究されているのか、調べてみて驚いたことにほとんどゼロに近かったのである。種子発芽に関する研究は、その大部分がスギ、ヒノキ、果樹類、クワ、ウルシ、ハゼ、街路樹などの有用植物に限られており、ドングリやクスノキなどの2~3の樹種に例外があるだけであった。このことに気づいてから、遅まきながら実験をはじめたが、簡単な調査であるにもかかわらず意外に年数がかかり、約50種ほど調査したときにはもう定年、退官の年齢になっていた。

種子の発芽の特性を知ること、単に学問的に重要なだけでなく、森林再生の基礎知識として必須のものである。種子の発芽は繁殖の第一歩だからでもある。また、日本人が日本の植物のことを知らないのでは、あまりにも恥ずかしいことではないだろうか。以下にいままでに判った点をまとめてみよう。
ドングリ類の発芽の特性

ドングリはシイノキやカシノキの仲間の種子である。穀斗(コクト)と言われるもので、お皿の上ののったような形をしている。しかし、シイノキでは全体に皮を被っており、ドングリではなく本物のクリはイガに包まれている。おなじブナ科に属するが、ブナは三角形に近い変わった形をしている。

ブナは照葉樹林帯の植物ではないので実験には加えていない。ドングリおよびドングリ類似の植物は分類学上次の4属21種である。これらの発芽の状態を調べた結果、ドングリが乾燥したら発芽しない、最善の条件で蓄えても2年以上は生きていない。この2点がはっきりした。極端な場合はドングリが成熟して母木から落ちて1週間日向にさらされたらもう発芽能力がなくなっているのである。もし、ドングリを発芽させて苗を作ろうと思うのであれば、毎日木の下で待ち受けて、集めたドングリはビニール袋に入れて湿気を保つ必要がある。昔の人たちはドングリを木箱に砂と共にいれて、庭に埋めて湿気を保たせ、春になったら取り出して苗畑に植えた」と記録されている。

先人の生活の知恵である。こんなことから発芽の実験には種子集めとその保存に随分と苦労した。結局のところ、一番早く熟するマテバシイが9月はじめころなので、9月から12月までの間、採ったらすぐに準備しておいたプランターに蒔く、という方法で「自然状態」での発芽の特性を調べた。その結果が下の図である。

ブナ科

- コナラ属.....16種(常緑8、落葉7種)
- シイノキ属.....2種(常緑)
- マテバシイ属.....2種(常緑)
- クリ属.....1種(落葉)

冷蔵庫に貯蔵したり、温度のちがう場所に保存したり、つぎつぎ実験を繰り返してドングリの発芽の特性のあらましがわかったのである。

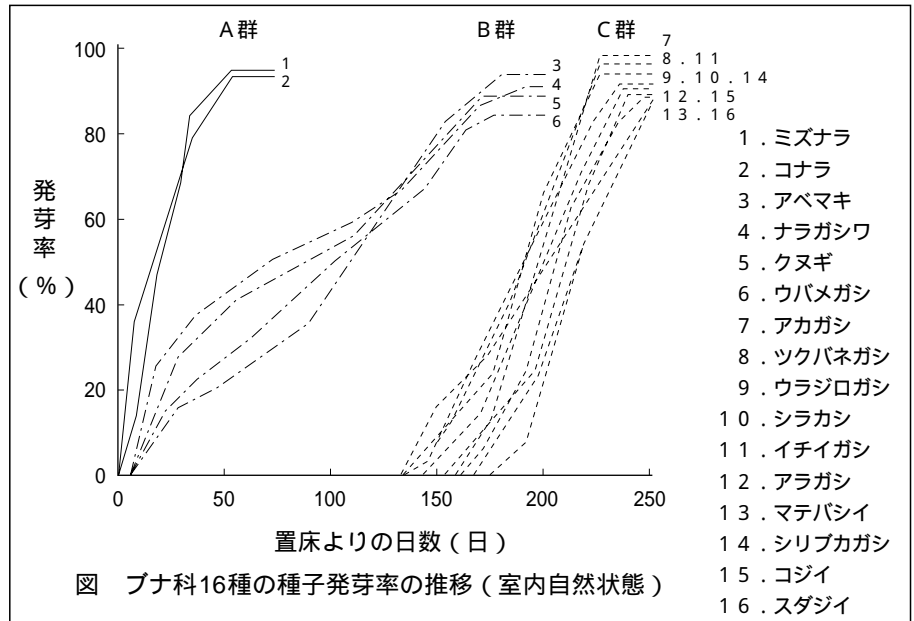


図 ブナ科16種の種子発芽率の推移 (室内自然状態)

絵はがきでGENの活動を広げよう

今年の年賀状をどんなふうにしようかと思案中のみなさん、GENの活動をひろめながら新年の挨拶を、というのはいかがですか。

厳しい環境のなかでたくましく生きる農民の姿を写し取った『春』篇、あつという間に過ぎ去る夏の輝きを切り取った『夏』篇、どちらも素晴らしい出来映えです。

ぜひご利用ください。

絵はがき『中国・黄土高原 春』
『中国・黄土高原 夏』

撮影・橋本紘二

各セットカラー8枚組

価格：1セット700円(郵送料別)

6セット以上の場合、1セット600円(送料込み)

20セット以上の場合、1セット500円(送料込み)

会員の方にはできれば6セット以上のご利用をお願いします。

青木 悦子さん講演会

～「自分史」を語る

いまでも続く厳しい差別

岡田 光司 (チコロナイ部会担当世話人)

第18回目のチコロナイ学習会を10月20日、アピオ大阪で開いた。今回は川崎市在住のアイヌ女性、青木悦子さんが「自分史」を語った。いつもとは少し違う講演会形式で参加者は約30人。青木さんが自ら形容した波瀾万丈の人生が共感を呼んだ。

青木さんは北海道幕別町生まれ。中学卒業と同時に上京。本屋さんで住み込みの事務などをした後、新宿や渋谷でゴーゴーガールやホステスを経験。その後、単身英国へ渡り帰国後、日本人と結婚。現在は上京した頃から関わっているアイヌ民族と和人の交流団体「ペウレウタリの会」で夫婦一緒に活動している。

講演で青木さんが訴えたのはいまでも根強く残るアイヌ人への差別。

「小学生の頃、あつ犬(アイヌ)と言われた。授業のフォークダンスでは男子が『汚い』と手を握ってくれなかった。アイヌの人と結婚しようと思ったことは一度もない。子どもの血を(日本人とアイヌ人の)半分ずつにしたかった。半分なら半分の差別しか受けないだろうと思った。いま言いながらも悲しくなる。それほど差別は厳しかった」と語る。そして、その差別が

学校、職場、社会でいまでも続いているという。

青木さんは差別をなくすために、まず全国の小中学校でアイヌ民族の歴史

をきっちりと教えること、そして、不十分ではあるけれど今年4月に出された政府の「ウタリ対策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書にそって、早急にアイヌ新法を作ることを訴えた。

青木さんの講演を聞いて

筏井 里絵 (学生)

イラム・カラプテ(あいさつの言葉)から始まった、青木悦子さんの自分史は、耳をおおいたくなるような差別と偏見が高笑う「えげつなさ」さえ感じられるものだった。

いわゆる「講演会」のなごやかな雰囲気はなく、話がすすむにつれて、一本のピアノ線をピーンと張ったような一種独特な緊張感がただよう空間が不思議

とうまれた。そんななかで、青木さん本人からしか聞くことのできないであろう話に、自分のなかの「和人」を意識するとともに、怒り、悲しみ、驚き、情けなさなど、さまざまな感情が入り乱れる1時間だった。

「和人と結婚すれば、子どもが生まれたときアイヌの血が半分になり、半分の差別しか受けなくていい。アイヌ



緊張感ただようなかで講演がおこなわれた

と結婚したいと思ったことは一度もない」と話す青木さんの、時どき頬を引っ張る仕様が、悲しみのなかの顔のこわばりをほぐしているかのように見えて、とても印象に残っている。青木さんとの出会いが、私の自分史に反映されるような人生を、歩いていきたいと思っている。

チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～ 第2期第2回

日時：11月23日(土)16時～17時30分
場所：GEN事務所(JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ。TEL.06-583-1719)
資料代：第2期(6回)分で2,000円
問い合わせ：平石清隆(TEL.0745-23-5627)
第1期からの人も、初めての人もどうぞ。1回だけの飛び入りも歓迎。平常は毎月第4土曜14時～16時です。

第19回 チコロナイ学習会のご案内

今回も特別企画です。ふるってご参加ください。
日時：11月23日(土)13時～15時
場所：リバティおおさか 大阪市人権博物館入口前集合(JR環状線「芦原橋」駅から南へ徒歩8分、TEL.06-561-5891)
内容
・常設展のアイヌ民族コーナー見学
・企画展「チカッポ美恵子・アイヌ文様刺繍展『アパッポ・花』」見学
・チカッポ美恵子さんとの交流会
参加費：1,000円(入館料含む)
問い合わせ：武田繁典(TEL/FAX.06-704-7720)まで。

ナショナルトラスト チコロナイ

第2期計画 現状報告

第2期計画は1995年12月10日から97年12月9日までの2年間で、募金目標額700万円です。使途は第1期で購入した山林に地続きの約6ヘクタールの山の購入です。

10月25日現在で、第1期からの繰り越し金と合わせて2,696,919円になりました。参加した人は第1期も合わせて合計362人です。

第2期の1年目も残すところ1か月、

あなたもナショナルトラスト・チコロナイの輪に加わりませんか。初めての方も、2回目以降の方もお待ちしております。

【連絡先】

緑の地球ネットワーク

〒552 大阪市港区市岡元町3-9-16

TEL. 06-583-1719 FAX. 06-583-1739

武田繁典（世話人）

〒546 大阪市東住吉区今川6-2-6

TEL.&FAX. 06-704-7720

貝澤耕一（現地世話人）

〒055-01 北海道沙流郡平取町二風谷31-3

TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991

郵便振替 00900-2-52024 チコロナイ

黄土高原からの風



陝西省から「榆林地区文工団」を招いての公演「黄土高原祝祭」が10月30日高槻で開かれました。主催は黄土高原文化交流協会。陝西省は山西省の西隣、黄土高原の続きの地ということで楽しみに参加しました。

20人程の団員による舞台いっぱいの力強い秧歌の踊り、民謡にあわせたコミカルな民間舞踊、映画「黄色い大地」でもおなじみの腰鼓、古典劇「秦腔」など、黄土高原の人びとの暮らしに根ざした出し物が多彩にくりひろげられました。

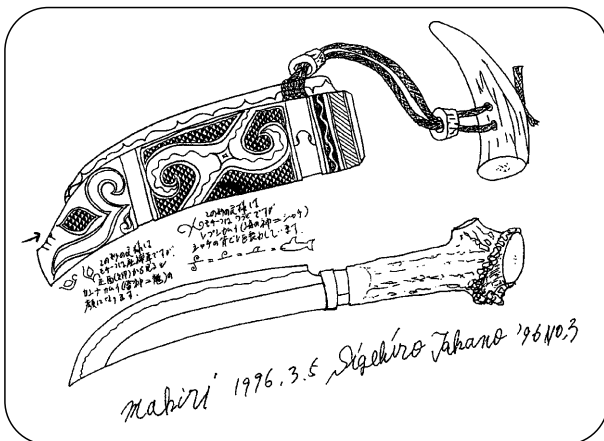
村の廟のお祭り、春節などでもこのような芸能が演じられ農民たちのなによりの楽しみとのこと。私たちの通う山西省大同周辺でもこのような芸能を楽しむのでしょうか。いつか参加してみたいものだと思いますながら、心地よいテンポの舞台に心がはずみました。

ロビーでGENのパネルの展示、絵はがき・切り絵の販売など私たちの緑化協力を紹介させてもらいました。切り絵は農民たちが農閑期の副業として作っているもので、彩色が鮮やかで人気。たちまち売り切れてしまいました。

立ち見が出るほどの盛況で、終了後観客は、ロビーに立ち並ぶ出演者にとぎやかな演奏に見送られて会場をあとにしました。（太田）

自然とともに生きる アイヌ民具作品展

高野 繁廣・啓子



私たちGEN・チコロナイ部会が現地研修などでお世話になっている北海道二風谷の高野民芸、高野繁廣さん・啓子さんの作品展（販売もあり）が大阪で開かれます。ご夫妻もこの間来阪されます。ぜひお越しください。なお、ご夫妻を囲んでのささやかな交流会も下記のように計画しました。旧知の方、関心のある方はご参加ください。

【作品展】

日時：11月20日（水）～25日（月）

12時～19時（25日のみ16時まで）

場所：ギャラリー春秋（JR「茨木」駅より徒歩1分）

【二風谷・高野さんを囲む交流会】

日時：11月23日（土）

19時～20時30分

場所：未定（JR「茨木」駅近くのレストランの予定）

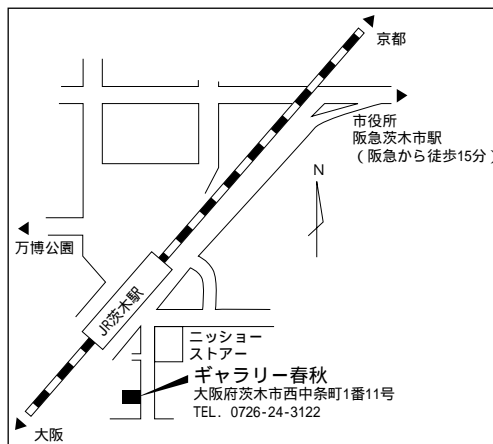
会費：2,000円ぐらい

問合せ・申込み

勝山明彦（TEL. 0726-27-5390）まで

11月21日までに必ず

電話でお申し込みください。場所はそのときお知らせします。



ジャスコでパネル展はじまる

～黄土高原の緑化協力を紹介

新妻 健治 (全ジャスコ労働組合)



ジャスコ秦野店で第一回のパネル展開催(左)組合員の運動会でも展示され、注目をあつめた(右)

私たちは96年4月のワーキングツアーをかわきりに、中国黄土高原の環境を考える人の輪を広げる活動に取り組んできました。

この10月から組合活動の新しい年度を迎えるにあたり、ワーキングツアーに参加した組合員のみなさんと、さらにこの「人の輪」を広げる活動を企画し実行に取り組んでいるところです。

私たちが所属するジャスコという会社(小売業)は、グループ企業といっしょにイオングループ環境財団を作っています。この財団は環境問題に取り組むNGOへの資金援助や環境保全に関する国際会議の助成などを通じて、積極的に地球環境を守る活動に取り組んでいます。

今回はこの会社と写真家の橋本紘二

さんのご協力により黄土高原の写真を提供していただき、ジャスコの店頭を借りて「中国黄土高原緑化活動写真展」を開催しました。同時に活動を紹介するパンフレットの配布、KDDグリーンアースダイヤルの募集、使用済みテレカの回収、橋本さんが撮影された絵はがきの販売も行っています。ワーキングツアー参加者や組合役員がボランティアで運営しています。

この写真展を通じて、会社、従業員、お客さまに広くこの活動を理解していただきたいと考えています。

お近くにお住まいでしたら、ぜひお寄りください。

【今後の予定】

ジャスコ栃木店(栃木県栃木市) 11月23日(土)～12月1日(日)

他店舗でも開催される予定です。機会があればぜひお立ち寄りください。

情報ひろば いっしょなかたち

「ポジティブ・エコロジー」 今、「私たち」に何ができるのか

「立教環境フォーラム」設立準備会
第1回公開シンポジウム

「ポジティブ・エコロジー」

- 今、「私たち」に何ができるのかを
考える -

パネリスト

阿部珠理氏(立教大学教育研究部)

岩槻邦男氏(理学部教授)

上田信氏(文学部助教授)

栗原彬氏(法学部教授)

佐々木研一氏(理学部教授)

日時: 11月29日(金) 17時30分～
19時30分(開場17時)

場所: 立教大学池袋キャンパス9号
館大教室(JR池袋駅より徒歩7分)

主催: 「立教環境フォーラム」設立
準備会

環境管理・監査で 何がかわるのか?

地球環境NGOネットワーク関西・

第4回学習会

環境保全型経済社会システムに向けて
「環境管理・監査で何がかわるのか?」

日時: 12月1日(日) 13時～16時

場所: 大阪市立弁天町市民学習セン
ター(TEL. 06-577-1430、JR環状
線・地下鉄中央線「弁天町」駅JR
北出口地下鉄2A出口より直通通路
あり)

参加費: 700円

主催・連絡先: 地球環境NGOネッ
トワーク関西(TEL. 06-222-3263

GEC気付)

内容

基調報告「環境管理・監査で何が
かわるのか?」

山田國廣さん(環境監査協会代表)

NGO・市民からの提案、情報交換

環太平洋反原子力会議報告

佐野雅哉さん(ノーニクス・ア

ジアフォーラム関西)

季節の柑橘をどうぞ

高知の田中さんから、土佐柚子、ポ
ンカンの案内が届きました。

ユズ(無農薬・有機 鶏糞主 栽培)

箱詰め

2kg. 17～18個入り 1,600円

柚子酢(無農薬)

1.8リットル 3,500円

出荷: 11月3日～12月5日

ポンカン(低農薬・有機栽培)

化粧箱入り(歳暮・贈答用)

5kg. 2L/3L 30個前後 3,800円

3kg. 2L/3L 20個前後 2,500円

5kg. L 35個前後 3,300円

普通箱入り

5kg. 2L/3L 30個前後 3,500円

5kg. L 35個前後 3,000円

5kg. M 40個前後 2,500円

5kg. 無選別 50個前後 2,000円

出荷: 12月5日ごろ～来年2月下旬

(無選別のみ来年はじめてから)

送料: 620円(関西方面)。その他の
地域はお問い合わせください。

お申し込みは田中隆一さんまで。

〒781-84 高知県安芸郡東洋町甲の浦
TEL/FAX. 08872-9-2500

売上げの一部をGENに寄付して
いただいていますので、ご注文の際
「GENの紹介」と添えてください。

GENパネル展・講演のお知らせ

京都大学学園祭でのGENパネル展

日時: 11月23日(土) 24日(日)

シンポジウム...11月23日13時から

京大工学部8号館共同第3講義室にて。

小川房人さん、高見事務局長が参加し
て講演・パネルディスカッションなど。